

授業科目	日本語教育方法論Ⅱ				実務家教員担当科目	-					
単位	2.	履修	選択	開講年次	1	開講時期	後期				
担当教員	清水 順子										
授業概要	この授業では、日本語教師が授業を行う際に必要となる、コースデザイン、シラバスデザイン、カリキュラムデザインを学ぶ。教授法と、具体的な教室活動の例を示し、日本語を教えるイメージを描きやすくする。さらに、ピア・ラーニングの考えに基づき、いくつかの協働学習法を体験しながら学ぶ。										
授業形態	講義	授業方法	PBL・ディベート GoogleClassroom を活用し、双方向型の授業を行う。								
学生が達成すべき行動目標											
標準的レベル	1. カリキュラム・デザインについて理解できる。 2. 日本語の教科書がどのようなシラバスに基づいて作成されているか説明できる。 3. シラバスと教室活動、教授法との関わりについて説明できる。										
理想的レベル	授業や実習には何が必要か理解し、備えることができる。										
評価方法・評価割合											
評価方法	評価割合（数値）				備考						
試験											
小テスト											
レポート	50%										
発表（口頭、プレゼンテーション）											
レポート外の提出物											
その他	50%				授業への参加度、提出物						
カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング											
DP1	○	DP2	-	DP3	○	DP4	-	DP5	-	ナンバリング	-
学習課題（予習・復習）										1回の学習目安 （時間）	
予習：該当部分の予習を行う。										4	
復習：授業で学んだことを、自身の授業ではどのように活かすか考えて、実践してみる。											
授業計画											
第1回	オリエンテーション 授業の概要を説明し、履修方法や授業の目的、達成目安、評価の内容と方法を理解する。										
第2回	カリキュラムデザイン1 プレタスク 教科書分析										
第3回	カリキュラム・デザイン2 コース・デザイン										

	ニーズ分析 レディネス分析
第4回	カリキュラムデザイン3 シラバス・デザイン
第5回	カリキュラムデザイン4 教室活動と外国語教授法 ポストタスク
第6回	授業デザイン1 準備と教案 授業の流れ
第7回	授業デザイン2 活動の形態と種類 教材と教具
第8回	授業デザイン3 学習者の認知面・情意面への配慮 模擬授業①
第9回	授業デザイン4 模擬授業②
第10回	ピア・ラーニング1 対話的問題提起学習を体験する
第11回	ピア・ラーニング2 LTD 学習法を体験する
第12回	ピア・ラーニング3 ジグソー・リーディングを体験する
第13回	学習者オートノミー 自己調整学習 自律学習
第14回	教師オートノミー 自己研修型教師 リフレクションについて話し合う
第15回	総括とレポート課題の確認
テキスト	『新 日本語教育を学ばなせ、なにを、どう教えるか』 遠藤織枝(三修社)
参考図書・教材 ／データ ベース・ 雑誌等の 紹介	『日本語教育演習シリーズ 授業の組み立て』 丸山啓介著 (にほんごの凡人社) 『国際交流基金 日本語教授法シリーズ1 日本語教師の役割・コースデザイン』 『国際交流基金 日本語教授法シリーズ9 初級を教える』 『国際交流基金 日本語教授法シリーズ10 中・上級を教える』 『国際交流基金 日本語教授法シリーズ12 学習を評価する』 『日本語教師のためのテスト作成マニュアル』 伊東祐郎著 (アルク)

課題に対するフィードバックの方法	提出物はコメントを付けて返却します。
学生へのメッセージ・コメント	<ol style="list-style-type: none">1. 積極的な参加を重視します。2. 正当な理由があり欠席・遅刻・早退する／した場合は、必ず届け出ておくこと。3. これまでの学習者としての体験を振り返りながら、授業に参加してください。